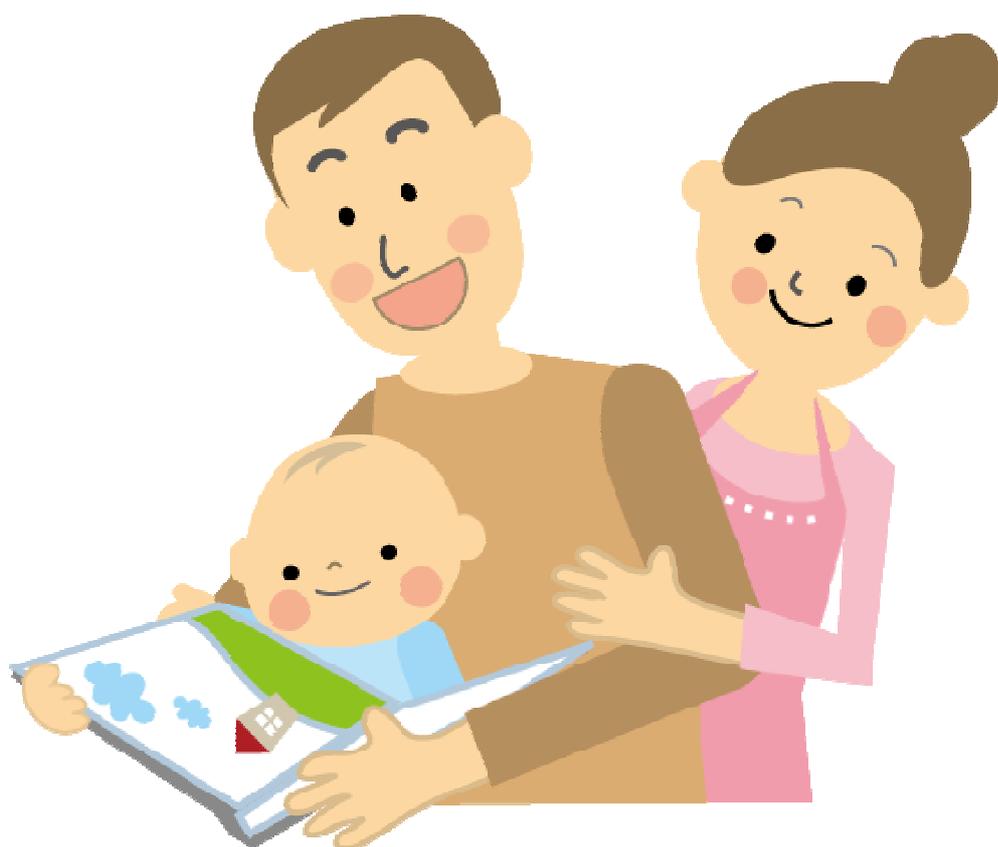


上富良野町子ども読書推進計画 (平成24年度～平成25年度)



上富良野町教育委員会

目 次

上富良野町子ども読書推進計画について	1
子ども読書推進計画の目標における現状と課題及び具体的方策	
1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進	
(1) 家庭での読書活動の推進について	2
(2) 地域での読書活動の推進について（関係機関）	4
(3) 学校での読書活動の推進について	6
2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実	
(1) 読書活動の環境整備について	8
3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及	
(1) 読書活動に関する理解と関心の普及について	10

上富良野町子ども読書推進計画について

子ども読書推進計画の基本的な方針

子どもの「読書離れ」が危惧される中、国においては、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行されました。

この法律の基本理念に「読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもが機会・場所を問わず、自主的に読書活動ができるよう、積極的にそのための環境整備が推進されなければならないものとする」ことが記されており、国は平成14年8月、この法律に基づき「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。また、地方公共団体は国の基本計画を踏まえ、「子どもの読書活動推進計画」を策定するよう努力することが定められています。これを受け、道では平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

上富良野町においても子ども読書活動の一層の推進のため、国・道の基本計画を踏まえ、乳幼児期から保護者ととともに読書に親しみ、楽しめる体験ができる機会をつくるなど、子どもたちにとって読書活動が日常習慣となるような支援が必要です。また、子どもが自主的な読書活動を習慣づけるには、家庭、地域、学校、図書館、各関係機関などが連携した取り組みが求められています。

本計画は、教育振興基本計画における第7次社会教育中期計画を踏まえ、子どもがその成長に応じて読書に親しめるよう、子どもの読書活動に必要な取り組みや環境整備など「子どもの読書活動」を推進するための基本的な考えや方針について策定しました。

【計画の位置づけ】

第7次社会教育中期計画の読書活動の普及の具体的な計画

【対象】

18歳以下のすべての子ども

【期間】平成24年度～平成25年度の2ヵ年 第7次社会教育中期計画の終了年次に合わせる
次回の計画年度は、第8次社会教育中期計画（平成26年度～平成30年度）の5ヵ年に
合せて計画を策定

【目標】

- 1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進
- 2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実
- 3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子ども読書推進計画の目標における現状と課題及び具体的方策

1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進

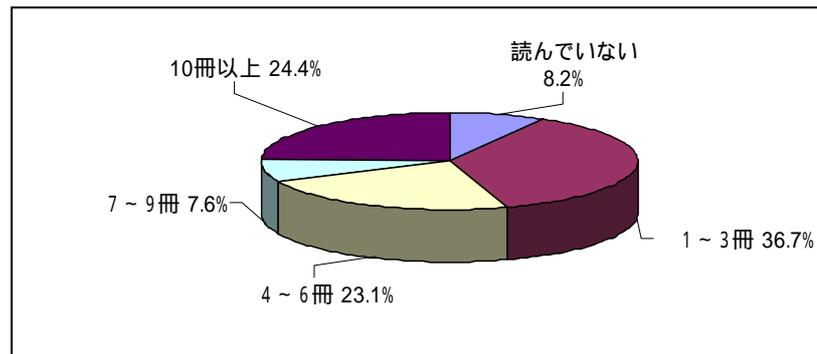
(1) 家庭での読書活動の推進について

【現 状】

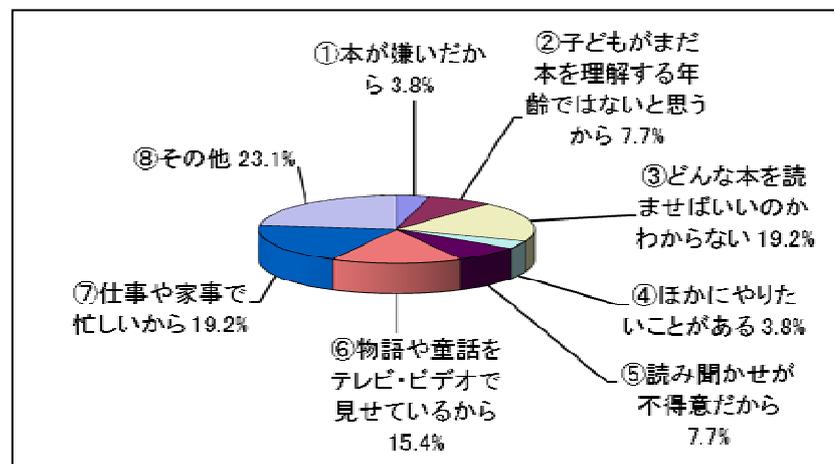
- ・各家庭において幼稚園・保育園（所） 子育て支援センターの保護者の読書調査結果から、約 92%の家庭で読み聞かせを行っている現状にある。
- ・7ヶ月児健康相談時におけるブックスタート事業を通じて、読み聞かせの意義を伝えている
- ・幼稚園、保育園（所） 子育て支援センターにおいて、読み聞かせを実施したり、保護者に対して読み聞かせの意義を伝えている。

アンケート結果から（幼稚園、保育園（所） 子育て支援センターの保護者の読書調査）

問1．あなたの家庭では、子どもに1か月平均何冊の本を読んであげていますか。（1つだけ選んでください）



問2．「読んでいない」と回答した方にお聞きします。読んでいない理由を教えてください。（1つだけ選んでください）



【課題】

- ・読んでいない理由として「どんな本を読ませればいいのかわからない」や「子どもがまだ本を理解する年齢ではないと思うから」など、家庭に対して読み聞かせの支援や意義を伝える必要がある。

【方策】

家庭は、子どもたちが読書する習慣を身につける最初の場です。身近な大人が身体で触れ合い言葉で話しかけることが、子どもの心の成長と言葉の発達に大きな役割を果たします。また、親子で本を読んだり聞いたりすることで感動を共有し、信頼感を得ることによって、人間形成に大きな影響を与えます。



このため、子どもが初めて本に触れ合う場としての家庭での読書活動を充実させることが大切となります。

保護者が進んで読書をするなど、本を読む環境づくりや読書の日常化を図ります。

妊婦に対して読書の大切さを伝えます。

保護者に対して家庭での読書の楽しさ・大切さを伝えます。

【具体的な取り組み】

- ・家庭での読み聞かせの実施（図書館、家庭）
- ・妊婦健診者を対象に読み聞かせの実施や意義を周知（図書館、保健福祉課、ボランティア）
- ・各種乳幼児健診、小学校就学前の幼児及びその保護者を対象にブックスタートなどの事業を通して、読み聞かせの実施や意義を周知（図書館・保健福祉課・子育て支援センター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）
- ・おすすめ絵本のブックリストの作成、紹介（図書館、ボランティア）

(2) 地域での読書活動の推進について（関係機関）

【現 状】

- ・図書館では、ブックスタート、幼児向け絵本のブックリスト作成や紹介、小学校等への移動図書事業、図書館まつり、読書感想文、感想画コンクールなどを実施している。
- ・読書ボランティア団体は2団体あり、小学校における朝読書やブックスタート事業等への支援を行っている。
- ・幼稚園、保育園（所）や子育て支援センターでは、毎日読み聞かせを行っている。

アンケート結果から（幼稚園、保育園（所）、子育て支援センターの調査）

主な回答

- ・園児が手の届く所に絵本を置いて、自由に選び、読める場を作っています。
- ・誕生会等でエプロンシアター・大型絵本、大型紙芝居の読み聞かせを行っています。
- ・育児教室（3ヶ月児の親子対象）で、絵本の読み聞かせの大切さについて30分程読み聞かせの実践を含め、絵本紹介などを行っています。
- ・月1回紙芝居の読み聞かせを取り入れています。
- ・読み聞かせ、その他誕生会で大型絵本や紙芝居を活用しています。
- ・絵本コーナーを設けており自由に子どもたちが読んだり、閲覧できるようにしています。
- ・講談社おはなし隊にお願いし（2年に1回）、絵本キャラバンカーに来ていただいています。
- ・その日来所する子どもの年齢に合わせた内容を決めるのに悩む事があります。（3才以下が主なので、特に0・1才児のもの）
- ・読み聞かせ中に立って歩く子、集中できない子、逆に集中（興味を持って）して、紙芝居や絵本の前に出てきて、座っている子が見えなくなる事がある時の対処法が知りたいです。



【課題】

- ・図書館において、読み聞かせ会を行っていたが平成21年度の途中から行っていない。
- ・子どもの読書週間における具体的な取り組みをしていない。
- ・図書館まつりでは、年々参加者が減少しており内容の見直しが必要である。
- ・読み聞かせボランティア団体が2団体あるが、様々な活動を行うためにボランティアの人材育成が必要である。
- ・幼稚園、保育園（所）や子育て支援センターと連携を図り、随時、絵本など本の情報や読み聞かせ等の情報提供をする必要がある。

【方策】

幼児期において、幼稚園、保育園（所）や子育て支援センターは、家庭ではじめて本に出会った子どもが、次のステップとして多様な読書活動を経験していく場であり、生涯の中で知的好奇心が高く、言葉の発達と想像力を培う大切な時間です。



特に読み聞かせは、子どもたちに豊かな感情を芽生えさせ、感受性や情緒性を高めます。また、読む側と聞く子どもたちのコミュニケーションを図りながら、楽しい読書活動を行うことが大切です。

このため、図書館と幼稚園、保育園（所）や子育て支援センターなどが連携し、読書ボランティア団体の協力の基で、地域における読書活動を推進する必要があります。

幼児期から読書習慣づけを進め、関係機関の連携により、本に親しめる機会をつくりま
す。

読書ボランティア団体等に対して、図書館が研修の機会や活動の場・提供などの支援を
行います。

図書館において子どもの読書に対するサービスの充実に努めます。

【具体的な取り組み】

- ・家庭における子どもの読書の啓発
(図書館・子育て支援センター・幼稚園・保育園(所)・ボランティア)
- ・読み聞かせの実施(図書館・子育て支援センター・幼稚園・保育園(所)・ボランティア)
- ・読み聞かせなどの研修会
(図書館・子育て支援センター・幼稚園・保育園(所)・ボランティア)
- ・読み聞かせ活動の内容の充実
(図書館・子育て支援センター・幼稚園・保育園(所)・ボランティア)
- ・おすすめ本のリスト作成、配布による読書推進
(図書館・子育て支援センター・幼稚園・保育園(所)・ボランティア)
- ・図書館まつりの開催(図書館・ボランティア)
- ・団体貸出しの推進(図書館)

(3) 学校での読書活動の推進について

【現 状】

- ・全小中学校において、朝読書活動を行っている。
- ・平成 21 年度に学校図書室に蔵書している図書について電算化を図り、町内各小中学校の図書室とのネットワークを構築した。
- ・図書委員会活動や読み聞かせ活動を行っている。



アンケート結果から(町内小中学校の調査)

主な回答

- ・毎週水曜日を朝読書の日として学校全体で取り組んでいます。また、週の1日を学年ごとに朝読書の日として設定し、週2回の読書を行っています。また、廃棄する本を学級文庫として、各クラスに渡しています。
- ・毎週火曜日に朝自習の時間に、図書委員会児童による読み聞かせを行っています。
- ・「読書の木」の取り組みを通して、読書活動への意欲化を図っています。
- ・職員向けに図書係から図書室だよりを発行(年4回の予定)しています。
- ・参観日の全体懇談や学級懇談で啓発をしています。

【課題】

- ・学校と図書館がより連携しながら学校の図書室運営について、より児童生徒が読書に親しめる環境整備を図る必要がある。
- ・学校図書の情報をデータ化し、学校と図書館の所蔵している図書情報の共有化を図った。
今後は、学校での運用状況や図書の貸出し状況を把握し、読書の推進を図る必要がある。



【方策】

学校は、子どもにとって学ぶ場であると同時に他人との集団生活の中で倫理観や他人への理解力を養う大事な人間形成の場です。この時期に読書習慣を確立することが、読解力や表現力を身につけ、本を通して様々なことを学び判断力などを高めることができます。

このため、児童生徒が読書に親しむ習慣づけを図るため、読書指導の充実や学校図書室の図書資料の充実及び活用を進めていくことが必要です。

児童生徒の読書習慣の定着を図ります。

ボランティアや図書館と連携による読書活動の推進を図ります。

学校図書室の図書資料の充実と児童生徒の利用促進を図ります。

【具体的な取り組み】

- ・家庭における読書を奨励するための情報提供（小中学校）
- ・朝読書や読み聞かせ活動などの読書活動の推進（小中学校）
- ・移動図書の利用促進（図書館、小中学校）
- ・教科や総合的な学習の時間、特別活動などでの学校図書室及び図書館の利用促進（小中学校・図書館）
- ・読書ボランティアの活用（図書館・ボランティア）
- ・学校間における図書貸出しなど図書資料の有効活用（小中学校・図書館）
- ・図書資料の計画的な購入・更新による整備充実（小中学校）
- ・学校図書室の利用促進（小中学校）

2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実

(1) 読書活動の環境整備について

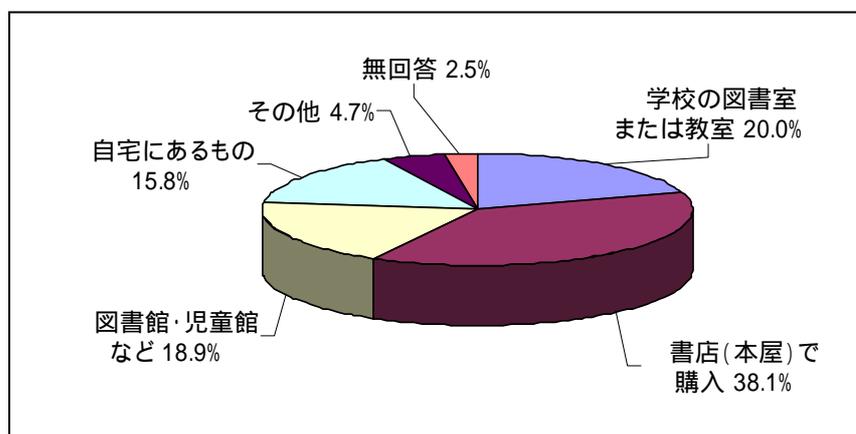
【現 状】

- ・図書館では季節やテーマを設定し、本の特設展示を行っている。
- ・図書館と学校図書室の所蔵図書データの情報を共有し、移動図書や調べ物学習など参考図書の貸出しや情報提供を行っている。
- ・図書館における児童生徒の利用者は10,881人、貸出し冊数は20,493冊である。(H21)
- ・幼稚園、保育園(所)、子育て支援センターのアンケートから、「本の貸出しをしたり、クラス内で少しでも時間がとれると絵本や紙芝居を読む機会を多くとっている」、「絵本コーナーを設けており自由に子どもたちが読んだり、閲覧できるようにしている」などがある。
- ・児童生徒のアンケート結果から、本を選ぶ場所として「書店(本屋)で購入」が約40%、「学校の図書室または教室及び図書館・児童館」がそれぞれ約20%となっている。



アンケート結果から(児童生徒の読書調査)

問6. ひと月に1冊以上読む人(問3で ~ に印をつけた人)にお聞きします。あなたは読みたい本をどこでえらびましたか。(1つだけえらんでください)



【課題】

- ・現在、図書館の読み聞かせ室を活用した読書活動ができていない。
- ・身近にある学校図書室や教室及び図書館等の活用を図る必要がある。
- ・幼稚園、保育園（所）等に対して、必要に応じ図書資料の貸出しや情報提供が必要である。
- ・学校、幼稚園、保育園（所）等の関係機関と読書に関する情報交換が不十分である。

【方策】

子どもが身近に本に親しめるよう環境整備を行うことが大切であり、本に関わる機会を増やすことで読書をするきっかけづくりにつなげていきます。



子どもが身近に読書に親しめる環境をつくれます。

学校図書室及び図書館が子どもに利用しやすい環境をつくれます。

関係機関と読書に関する情報交換で実態把握し、読書の環境整備を図ります。

【具体的な取り組み】

- ・図書館における読み聞かせ室の活用と読み聞かせ会の開催（図書館・ボランティア）
- ・学校図書室及び図書館において、利用しやすい配架（図書館・小中学校）
- ・図書館における児童資料の充実及び環境整備（図書館）
- ・幼稚園、保育園（所）等に対して、必要に応じ図書資料の貸出しや情報提供（図書館）
- ・関係機関と読書に関する情報交換を行い、読書環境を整備
（図書館・保健福祉課・子育て支援センター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）

3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

(1) 読書活動に関する理解と関心の普及について

【現 状】

- ・秋の読書週間において、読書感想文、感想画コンクールを実施している。
- ・児童生徒のアンケート結果から、「好き・どちらかといえば好き」をあわせると87%を占めており、読書が好きな児童生徒が多い。
- ・幼稚園、保育園（所）、子育て支援センターの保護者のアンケート結果から、「創造力や感性を育てる」、「読解力を養う」など、98%の人が読書は効果があると回答している。

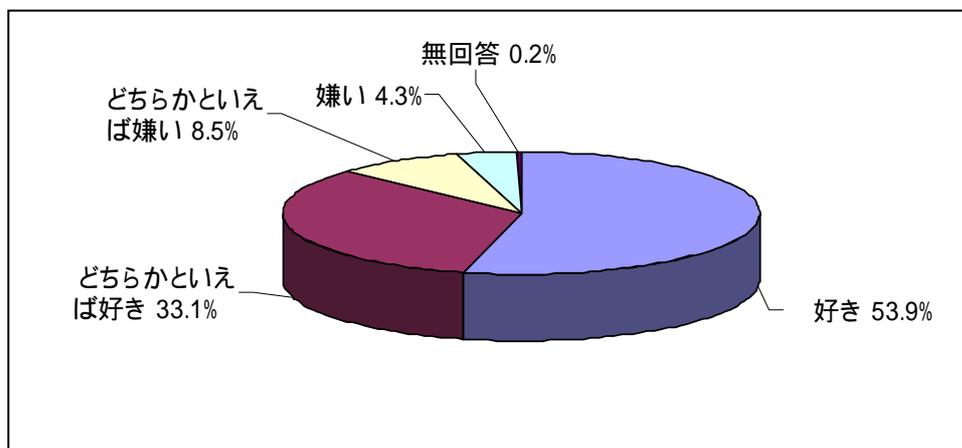


アンケート結果から

(児童・生徒及び幼稚園・保育園（所）・子育て支援センターの保護者の読書調査)

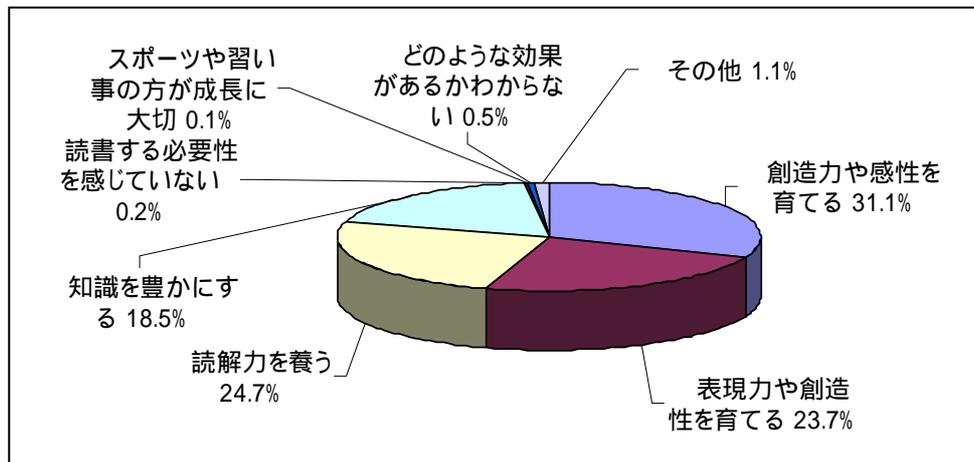
※児童・生徒の調査

問1 あなたは本を読むことが好きですか。(1つだけえらんでください)



※幼稚園・保育園（所）・子育て支援センターの保護者の調査

問7 子どもの成長にとって読書はどのような効果があると思いますか？(3つまで選んでください)



【課題】

- ・子どもの読書週間においては、ポスター掲示のみで、読書推進に関する事業を実施していない。
- ・図書館の利用や図書資料の情報提供が不十分である。
- ・様々な場面において、読書の意義を子どもや大人に伝えていない。

【方策】

子どもの読書活動推進のため、その意義や重要性について理解と関心を深めることが大切であり、大人も含めて読書活動に対する理解・関心を高められるよう、関係機関と連携・協力による普及啓発活動が必要である。



読書に関する情報を提供します。

各種読書週間における広報、啓発活動を行います。

様々な場面において、読書の意義を伝えます。

【具体的な取り組み】

- ・おすすめ図書などの情報を子どもや大人に対して情報提供（図書館）
- ・「子どもの読書週間」や「秋の読書週間」における広報、啓発（図書館）
- ・図書館においてインターネットや図書館だよりなどを利用した広報、啓発（図書館）
- ・読書感想文、感想画コンクールの実施（図書館）
- ・子どもの読書週間における読書推進のイベントを実施（図書館・ボランティア）
- ・様々な場面において、読書の素晴らしさや良さなどの意義を周知
（図書館・保健福祉課・子育て支援センター・小中学校・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）



上富良野町子ども読書推進計画

発行日：平成24年3月

編集・発行：上富良野町教育委員会
(上富良野町図書館)

〒071-0541

空知郡上富良野町富町1丁目3番25号

TEL 0167-45-3158 FAX 0167-45-3562